NEO-M8P、M8Tの設定方法

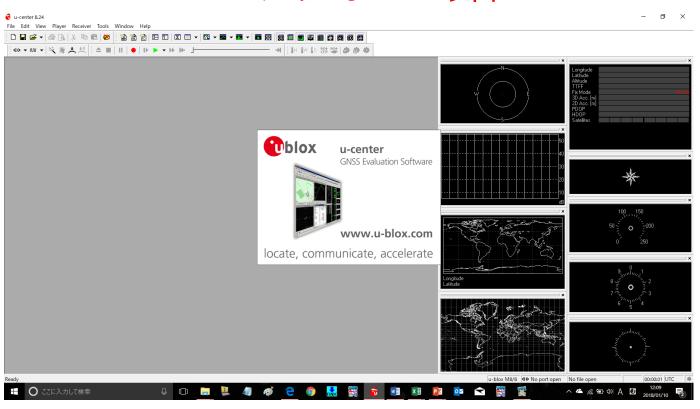
基準局、移動局ともにM8P(M8T)を利用することを想定しています

アンテナとUSBを受信機とPCにつないで、u-centerを起動

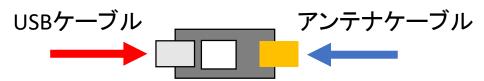
バージョンは19.01以降



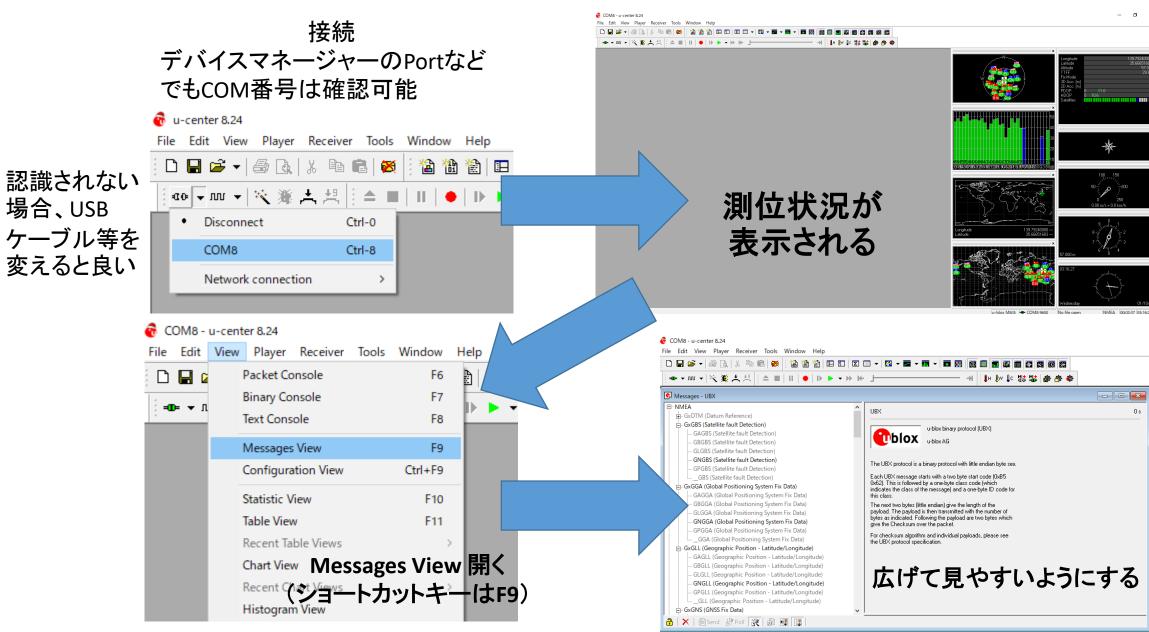
写真はセンサコム社のM8Tロガー ※受信機によってケーブルやUSBを挿し込む 位置は千差万別なので、そのつど要確認



通常M8P、M8T受信機はこのような形なので見ればわかります

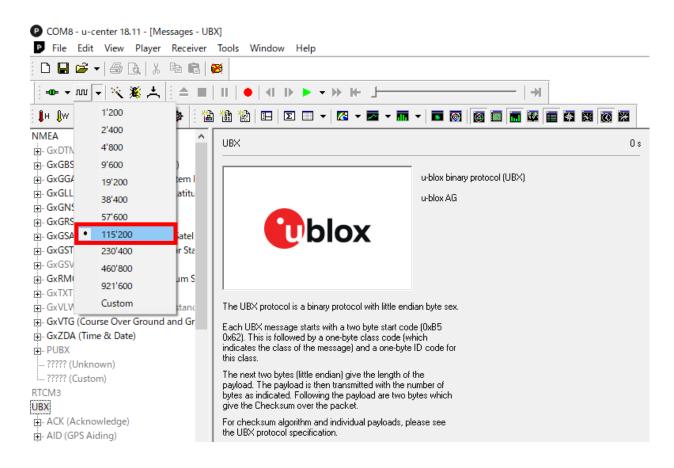


COMに接続して、Messages Viewを開く



場合、USB

設定の前にBaud Rateを設定



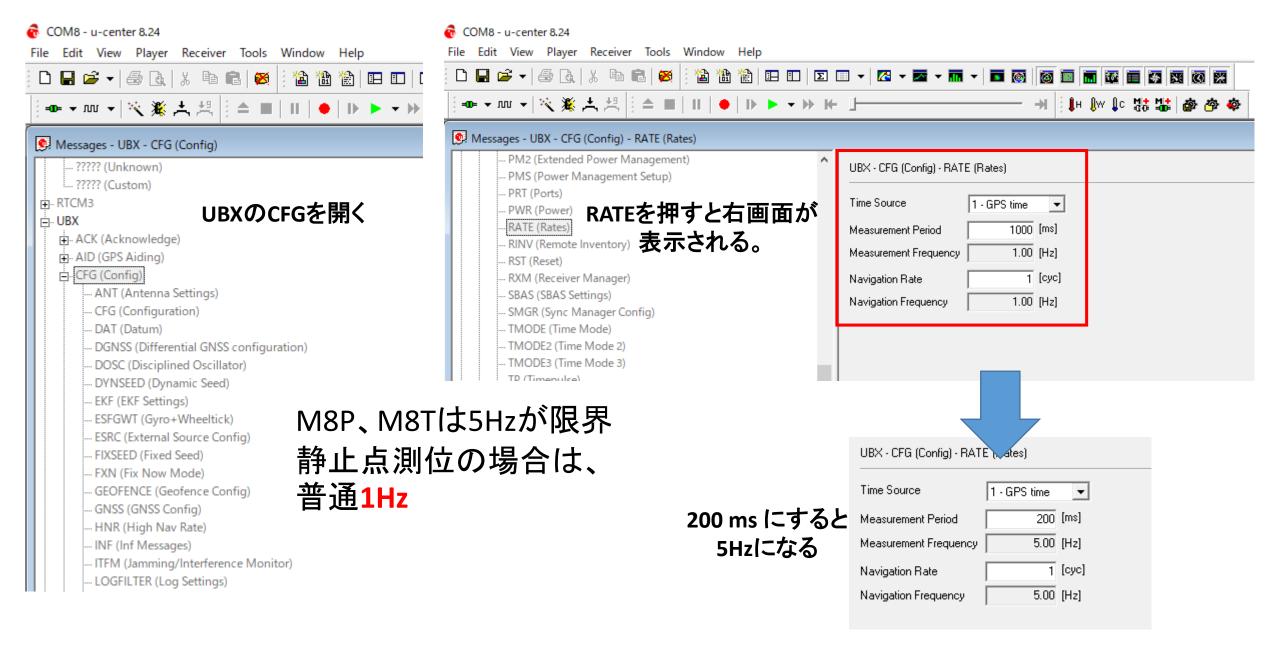
Baud Rateに関しては、

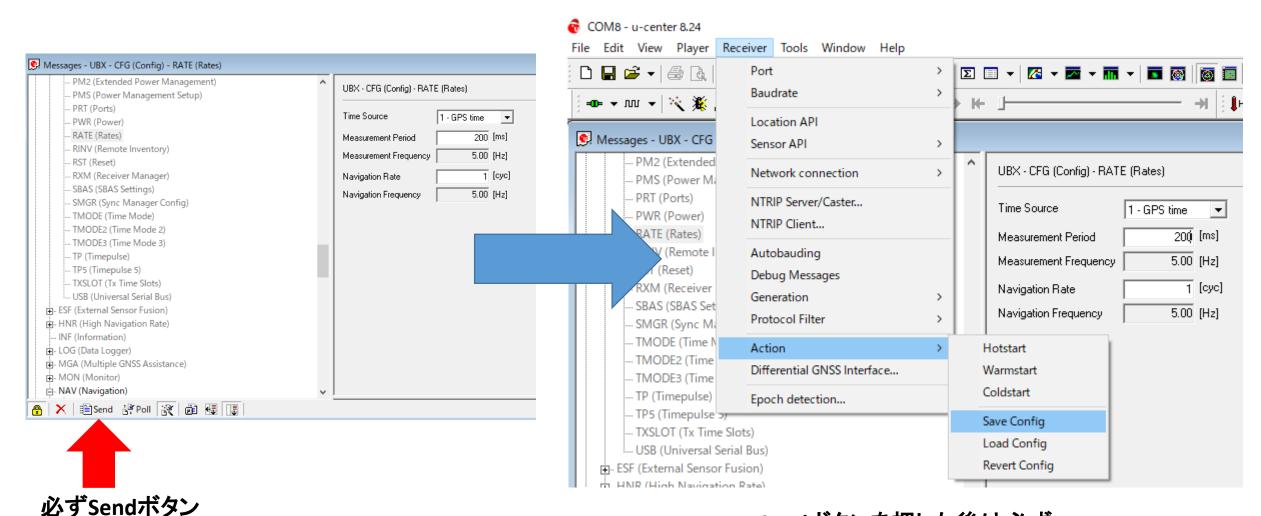
115200

がとりあえずは望ましい。

※ここを設定せず、9600(デフォルト)のままだとデータが抜ける可能性あり

UBXのCFGで各種設定(ここではRateの設定)^{移動・基準共通}

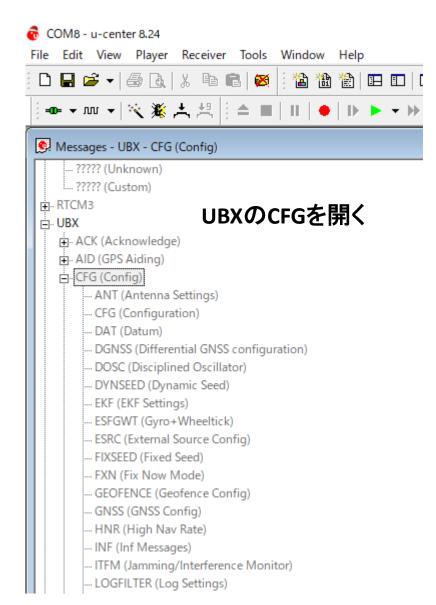


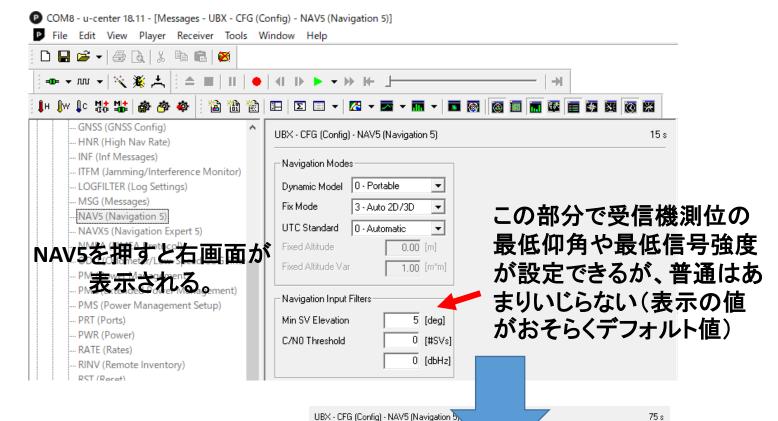


を押す

Sendボタンを押した後は必ず Receiver→Action→Save Configも押す

UBXのCFGで各種設定(ここでは測位モードの設定)





Navigation Modes

Fix Mode

UTC Standard

Min SV Elevation

C/N0 Threshold

Dynamic Model 0 - Portable

Navigation Input 10 - Bike

2 - Stationary

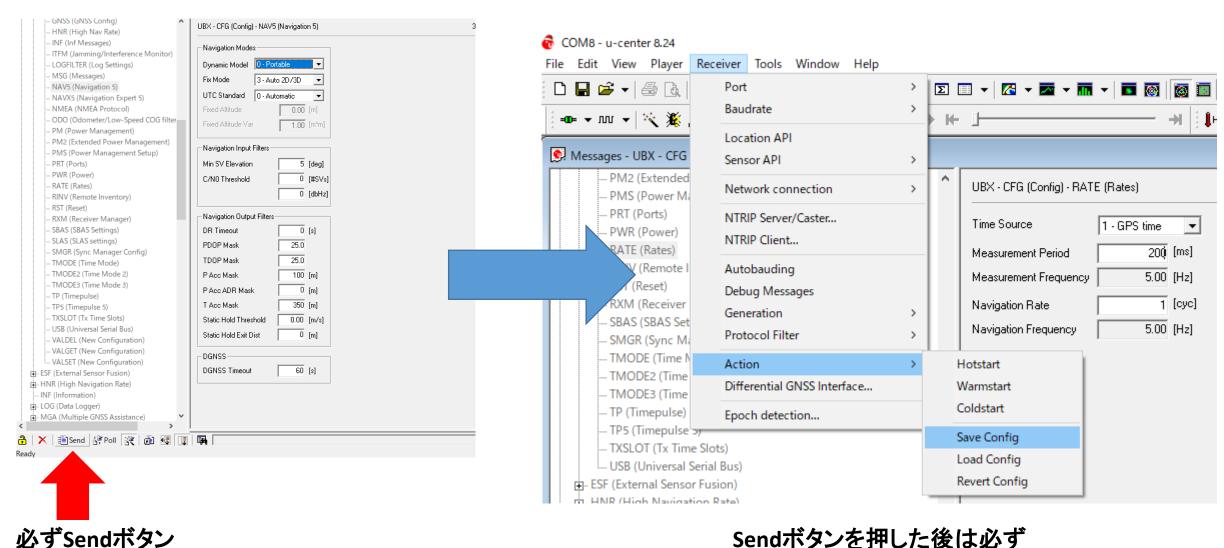
4 - Automotive

7 - Airborne < 2q 8 - Airborne < 4a

5 [dea]

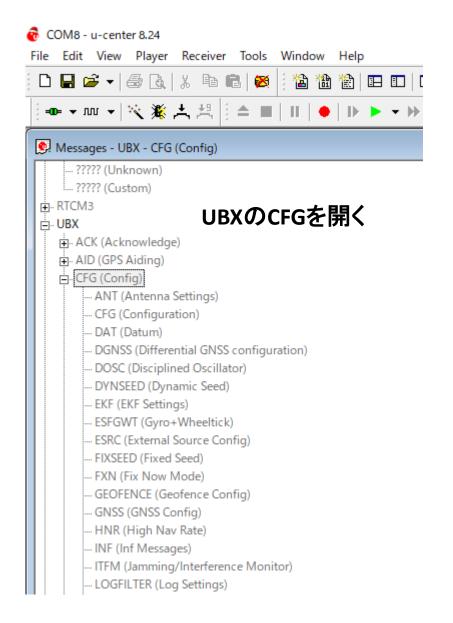
0 [#SVs1 0 [dbHz]

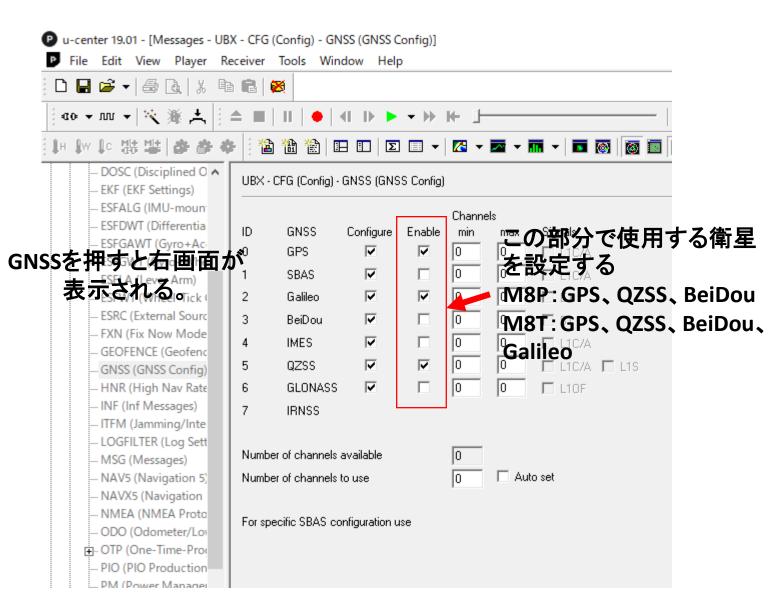
色々とモードがある 基本は移動局も基準局もPortable Stationaryは静止点測位 Pedestrianは歩行者測位 Automotiveは車両移動体測位 など

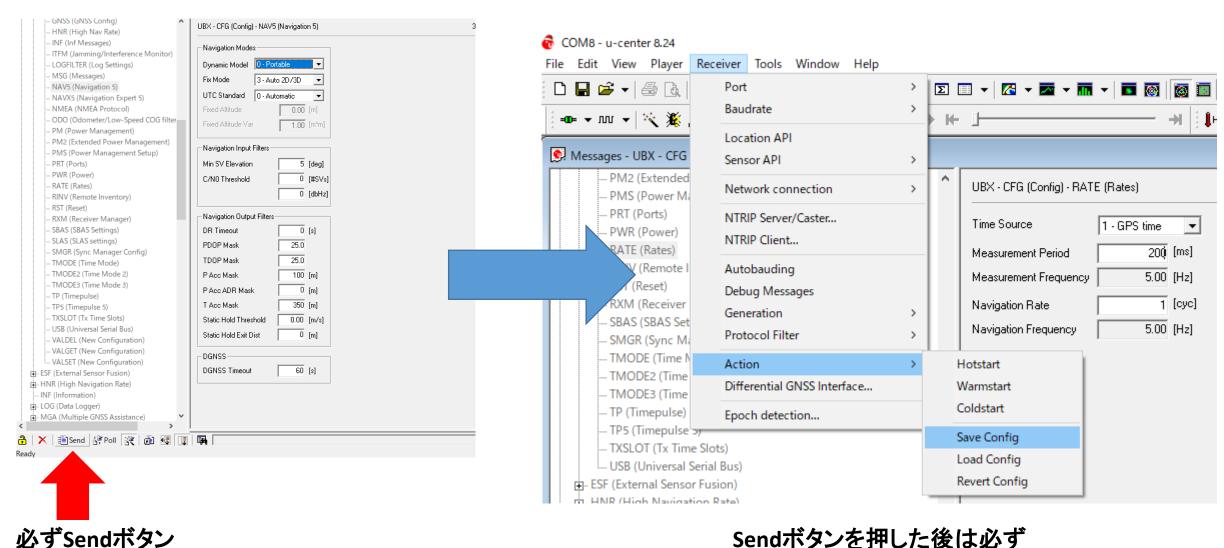


Sendボタンを押した後は必ず Receiver→Action→Save Configも押す

UBXのCFGで各種設定(ここでは使用衛星の設定)^{移動・基準共通}

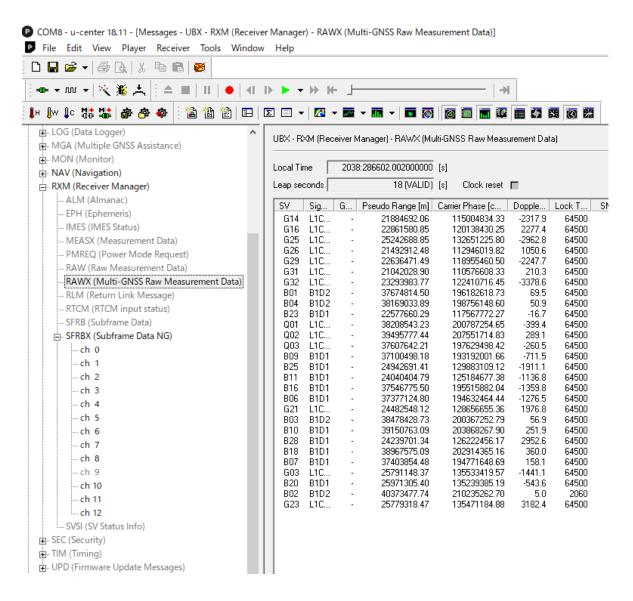






Sendボタンを押した後は必ず Receiver→Action→Save Configも押す

RAWデータの出力設定

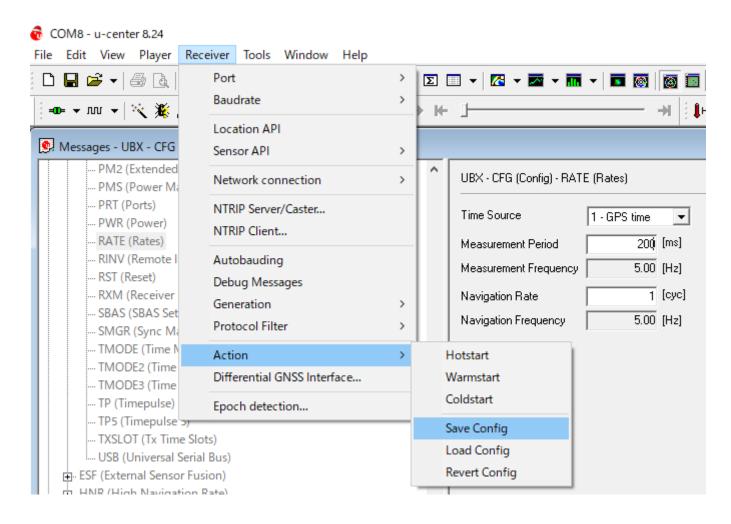


後処理解析をする際は、

- •RAWX(観測データ)
- •SFRBX(航法メッセージデータ)

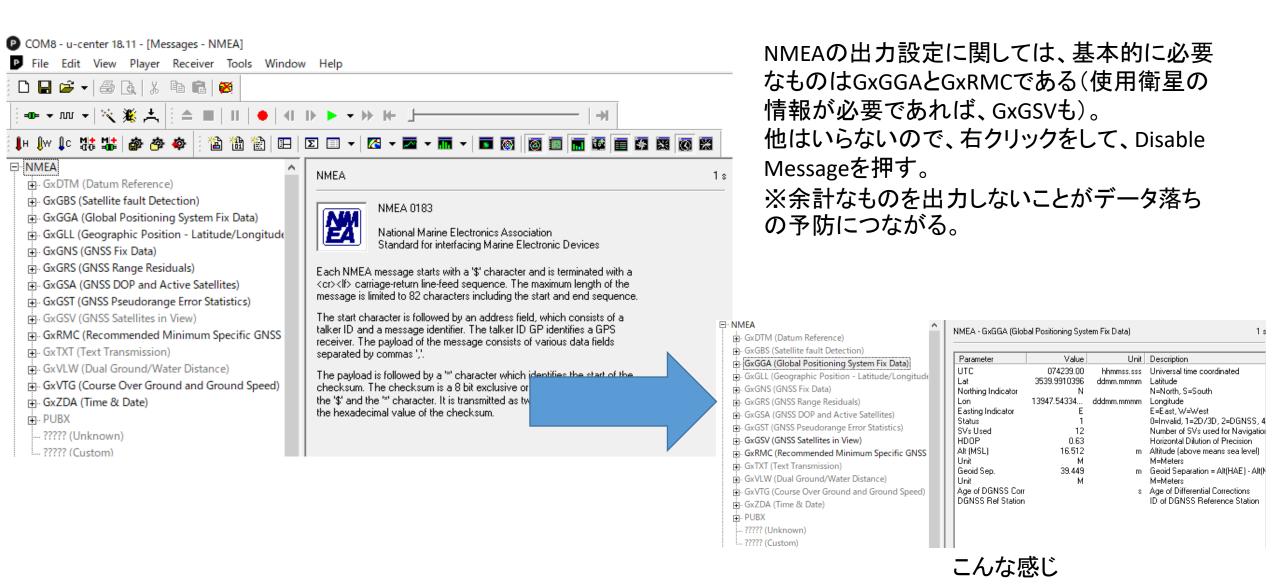
の2つがアクティブになっていることが極めて重要

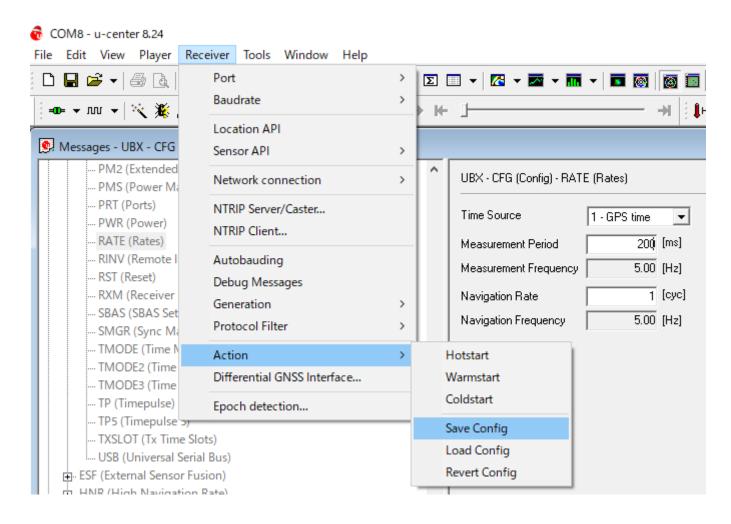
もし左図のようにアクティブになっていない場合は、 RAWXとSFRBXをマウスオーバーし、右クリックをして Enable Messageを押す そうするとアクティブになる



Sendボタンを押した後は必ず Receiver→Action→Save Configも押す

NMEAの出力設定

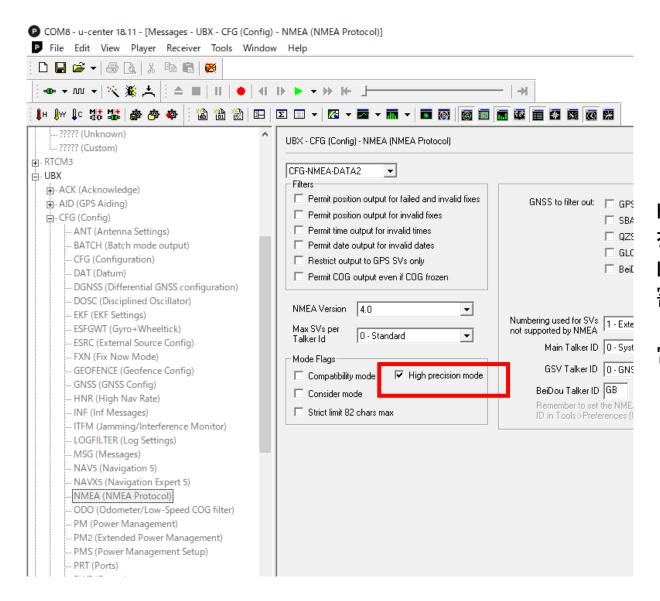




Sendボタンを押した後は必ず Receiver→Action→Save Configも押す

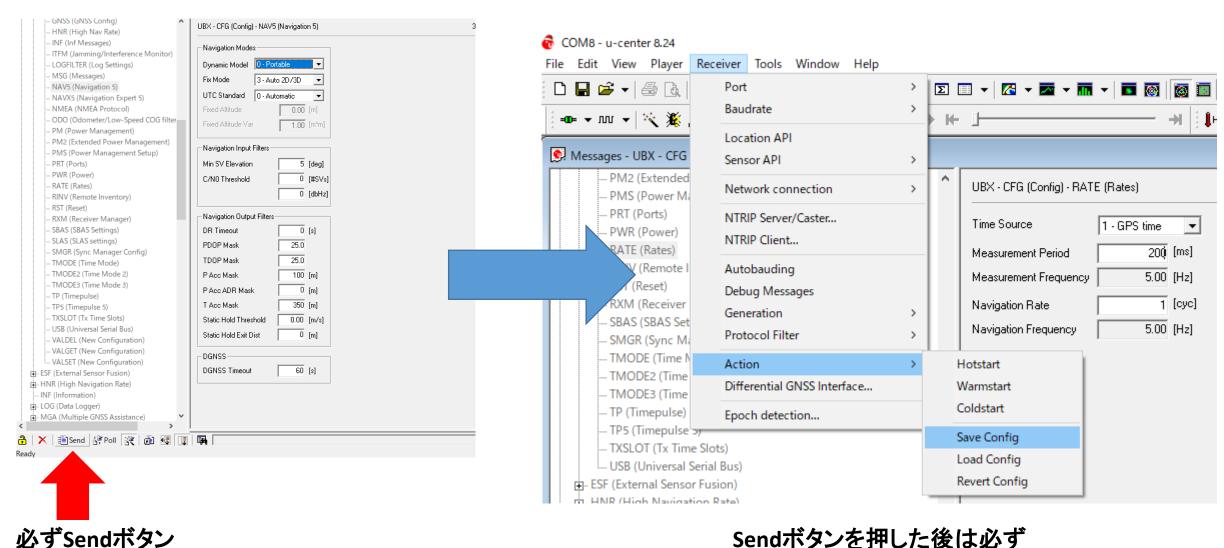
補足(割と重要):

M8P、F9P等を使用した精密な測量レベルの位置が必要な場合



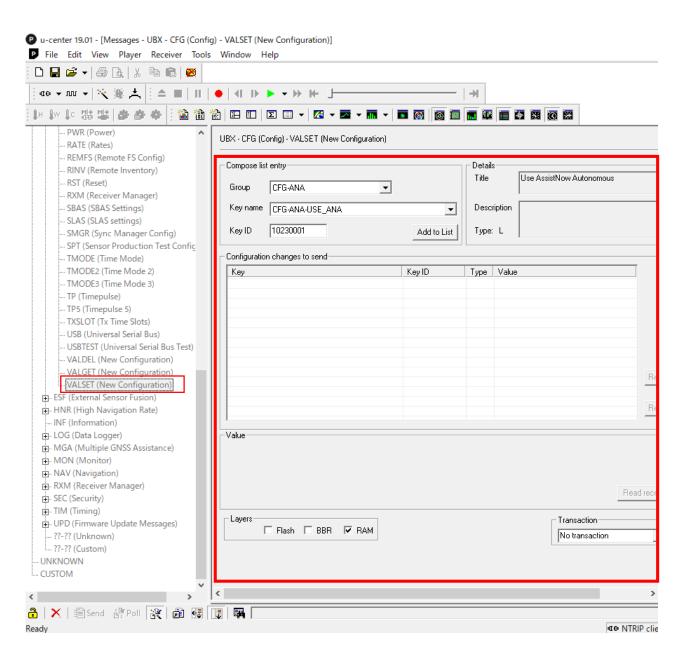
High precision modeに√を入れてSendボタンをクリックすることで、GxGGAやGxRMCのLat/Lon/Hgtの小数点以下が細かくなる。割と重要

常に✓を入れておくことが推奨



Sendボタンを押した後は必ず Receiver→Action→Save Configも押す

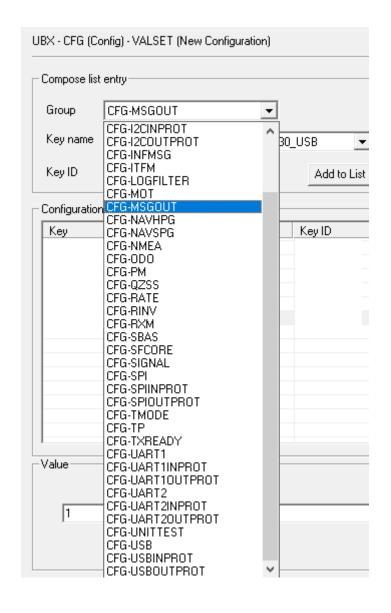
UBXのCFGでRTCMの設定



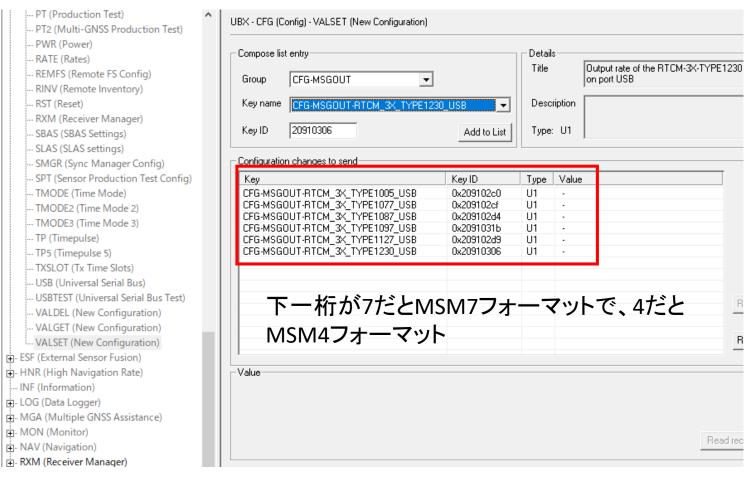
UBX-CFG-VALSETに行く

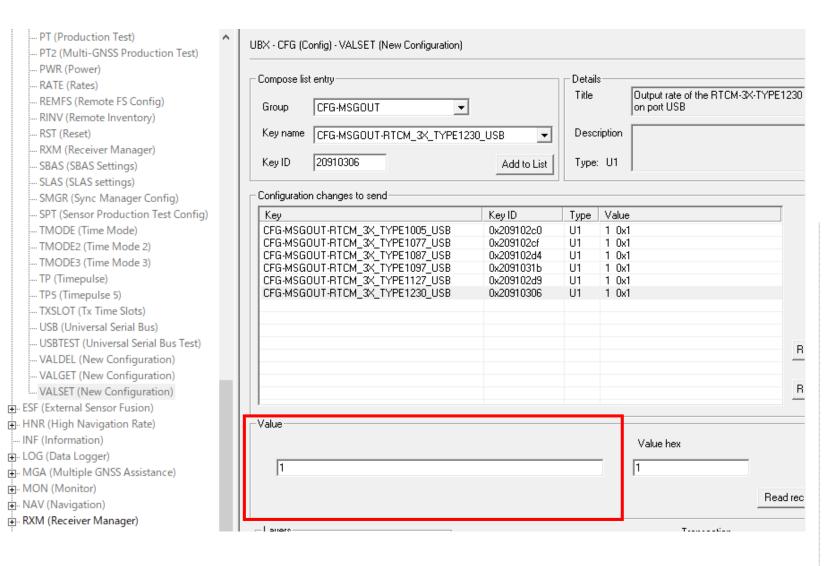
こちらの項目で各種設定をする

CFG-MSGOUTを選択する



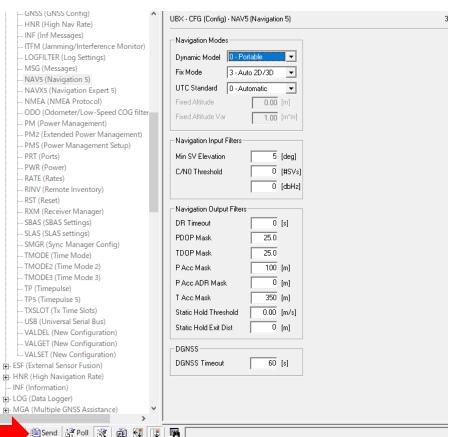
以下のMSM7もしくはMSM4のRTCMのフォーマットをKey nameから一つ一つ選択し、Add to Listをクリックしてリストにいれる





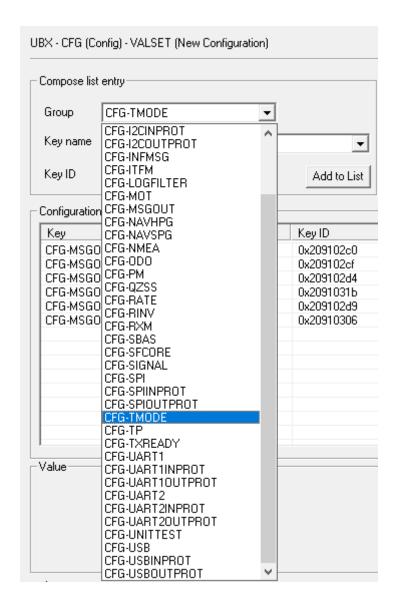
リストに入れた項目を一つ一つクリックし、下にあるValueのところにどの項目においても1を入力する

※1がEnableの状態を意味する

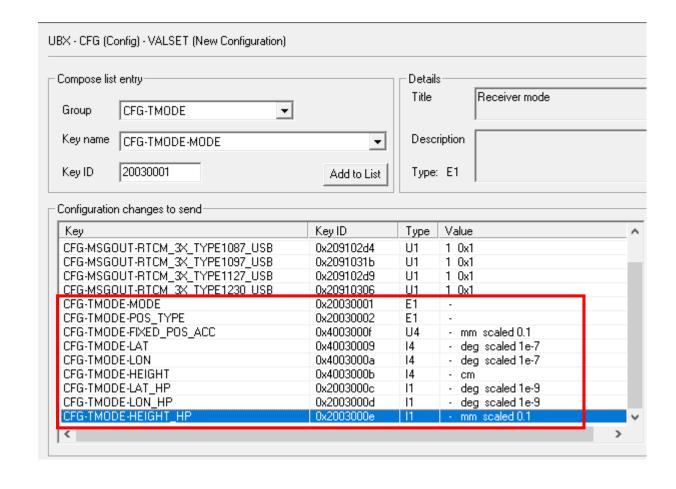


上記が済んだら必ずSendボタンを押す

CFG-TMODEを選択する

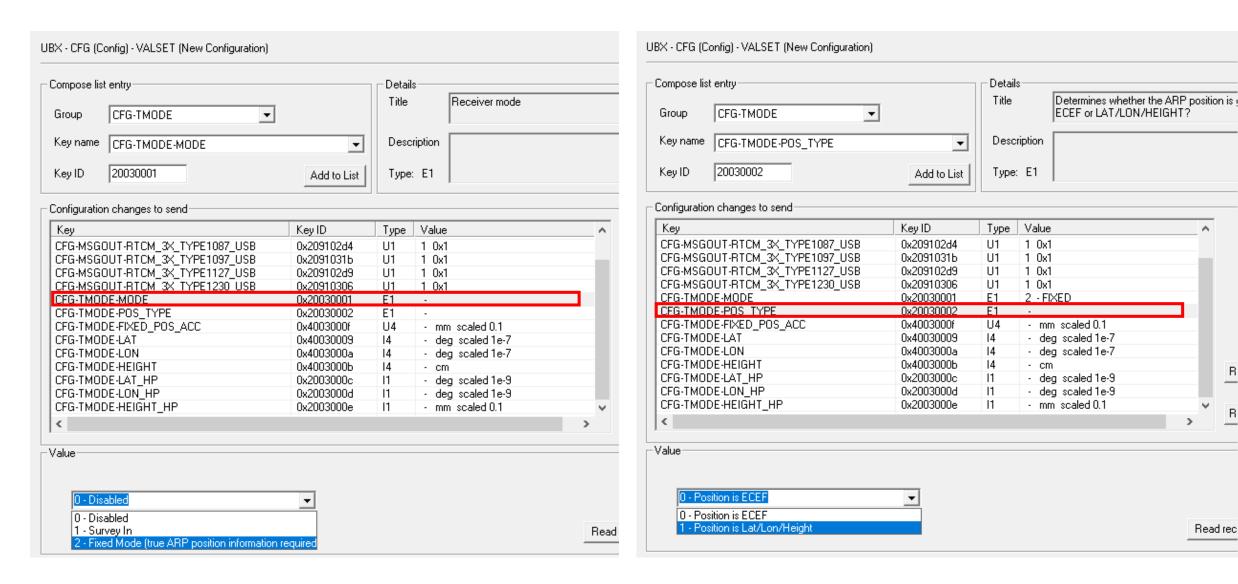


以下の項目をKey nameから一つ一つ選択し、Add to Listをクリックしてリストにいれる

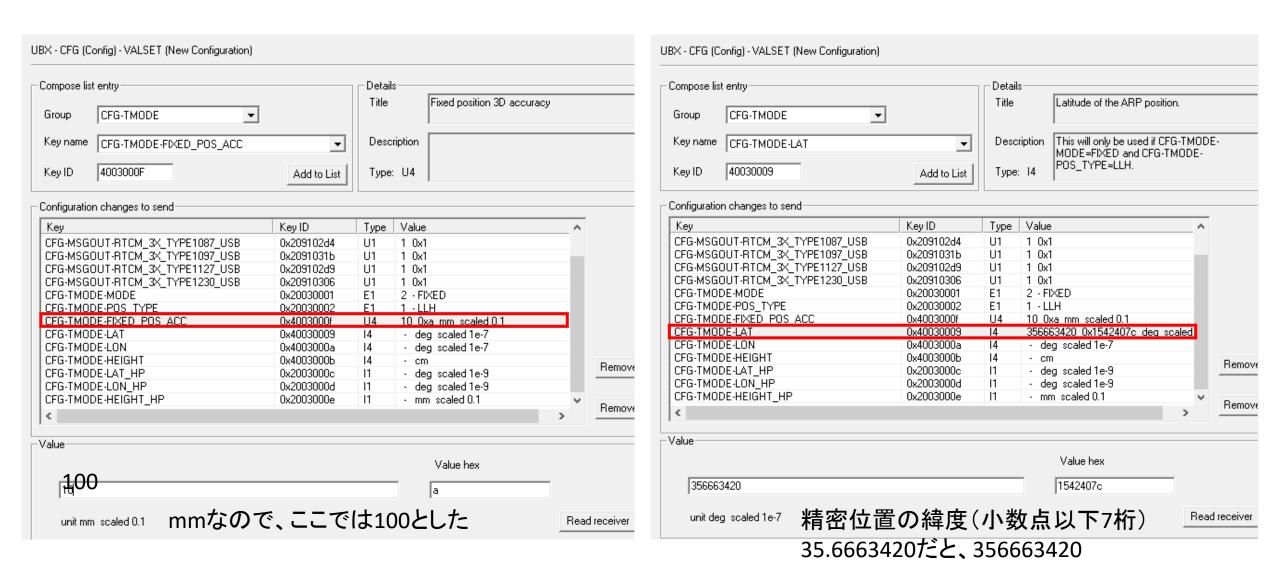


Read rec

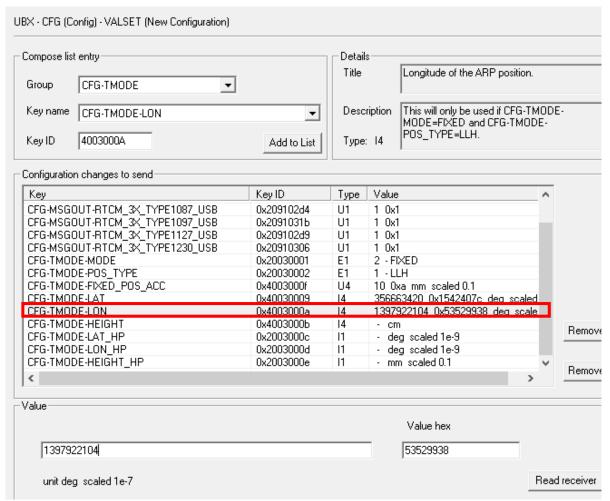
CFG-TMODEで新たにリストにいれた項目に関しては以下のように設定する



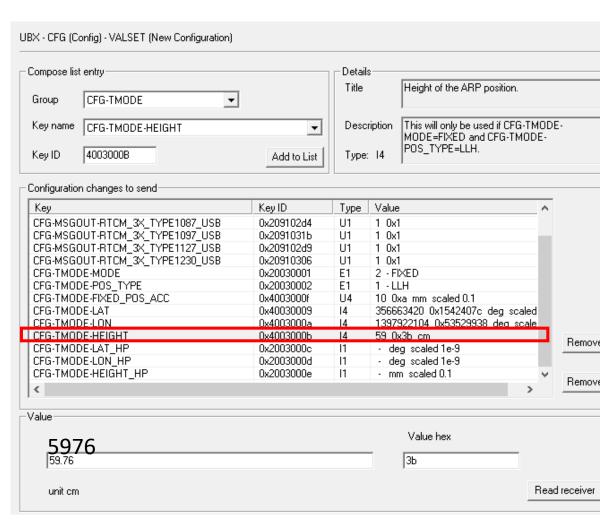
CFG-TMODEで新たにリストにいれた項目に関しては以下のように設定する



CFG-TMODEで新たにリストにいれた項目に関しては以下のように設定する

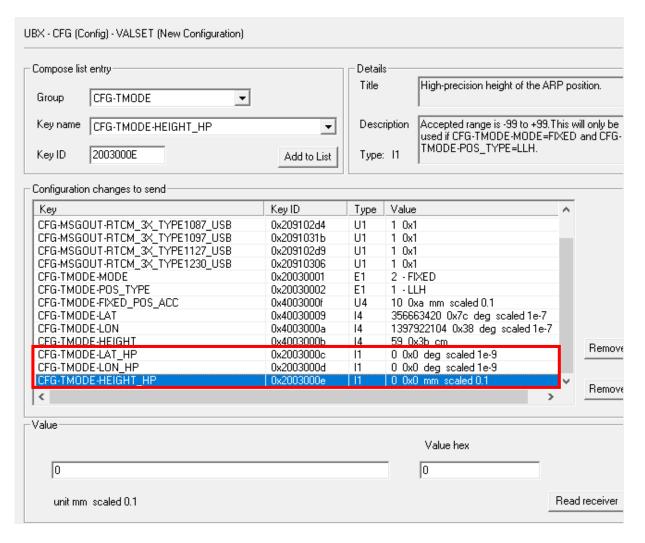


精密位置の経度(小数点以下7桁) 139.7922104だと、1397922104



精密位置の楕円体高(小数点以下2桁) 59.76だと5976

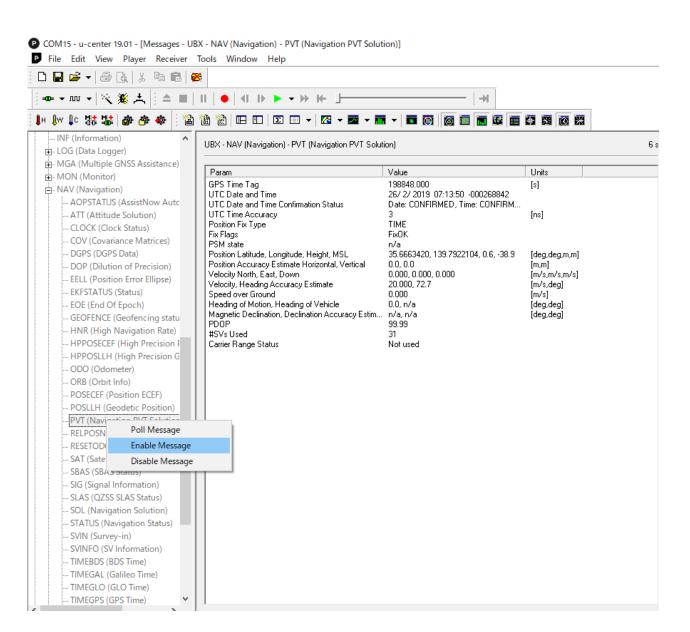
CFG-TMODEで新たにリストにいれた項目に関しては以下のように設定する



High precision modeである細かい 設定の

CFG-TMODE-LAT_HP CFG-TMODE-LON_HP CFG-TMODE-HEIGHT_HP に関してはイマイチ不明

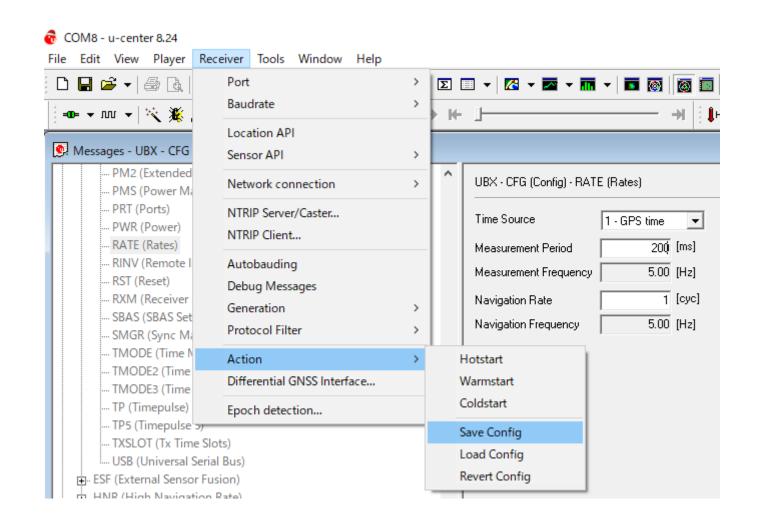
とりあえず0で大丈夫そう



基準局設定 M8Pのみ設定可能

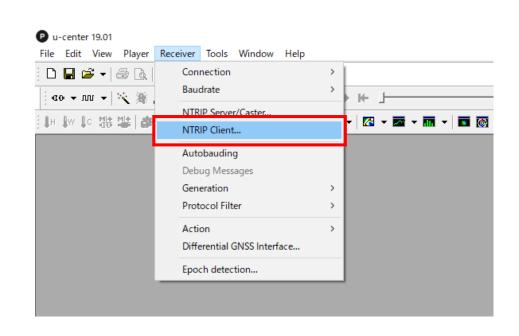
UBX-NAV-PVTを右クリックし、Enable Messageをクリックする

右に表示されているFix Modeが3D から「TIME」になるとOK



全部終わったら必ずReceiver→Action→Save Configを押す

RTKのやり方(VRSもしくはRTCM受信方式)



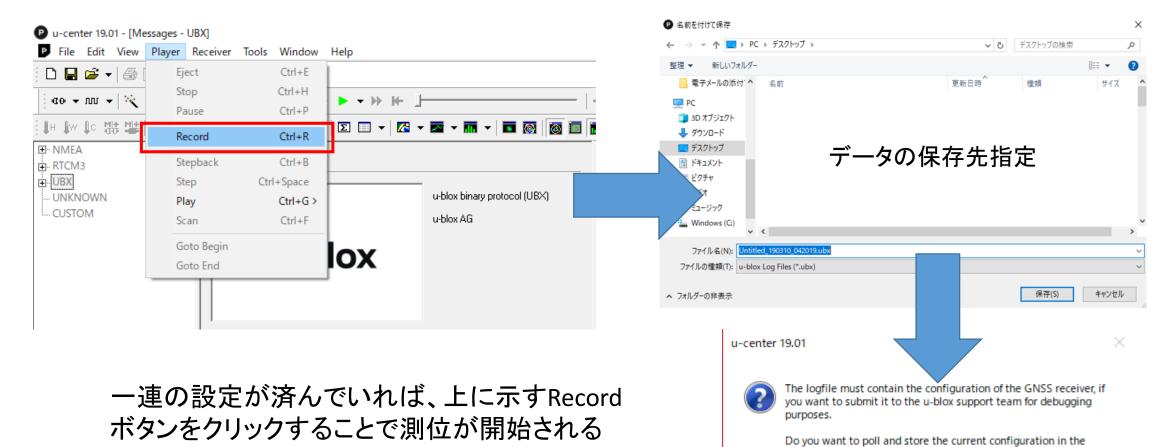
ReceiverにあるNTRIP Clientをクリックし、NTRIP client settingsを設定する(IPやマウントポイントなど) ここに関しては各自契約していたり、利用可能であるサーバーの情報を打ち込む ※日本テラサットのVRSだと右のような設定になる(Usernameはかくしてあります)

	s		
Address:	ntrip.terasat.co.jp		
Port:	5001		
Username:			
Password:	******		
NTRIP stream		,	
	Update source table	Request	Interval (sec)
NTRIP mount point	VRS_RTCM3(GNSS)	_	Mount point detai
Use manual pos	ition		
Use manual pos Longitude (deg):	0		
Longitude (deg):	0		

上記の情報を埋め、「OK」をクリックすると、Fix modeの部分が3D/DGNSS/FIXEDとなりため、RTK測位の状態になる(データ取得方法は次のスライドから)

※RTKしていない状態だと、NMEAは単独測位の結果となる

測位の始め方



保存先等を聞かれるので、デスクトップに保存

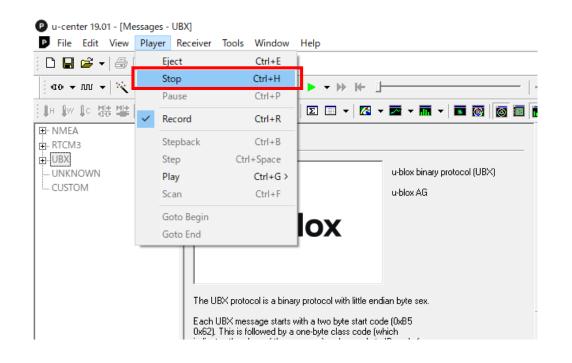
したりする

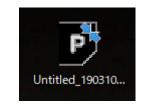
「いいえ」をクリック

はい(Y)

いいえ(N)

測位の終わり方



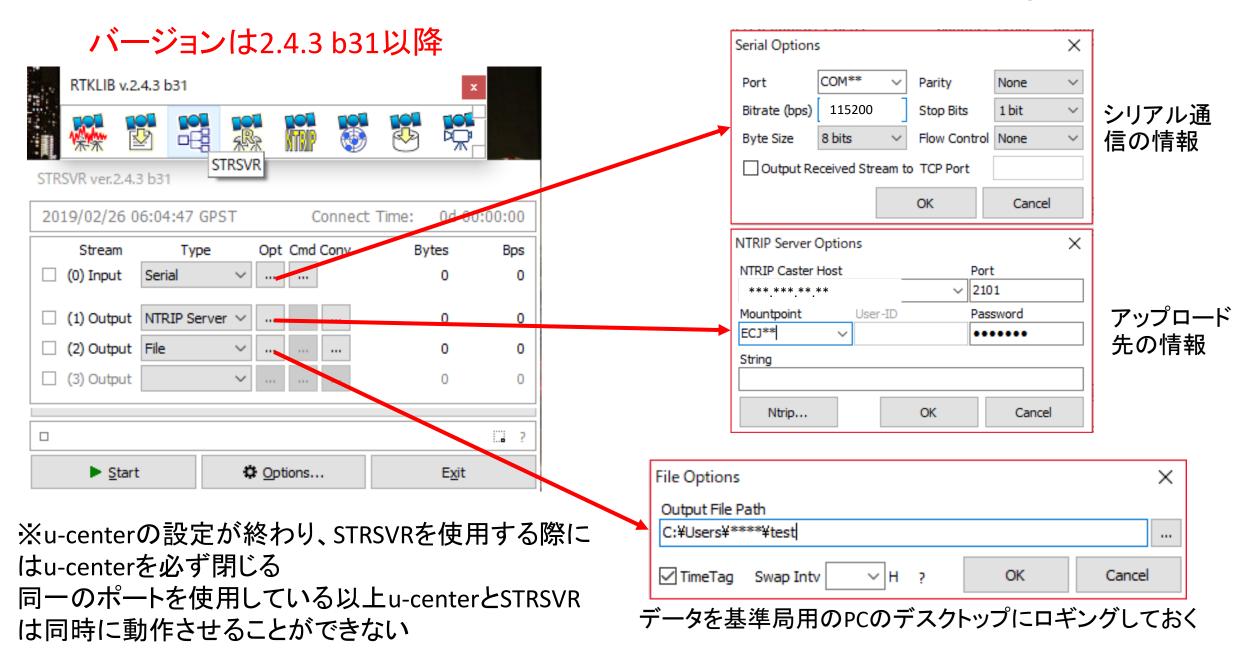


測位を終える際は、同様に「Stop」ボタンをクリックする 保存先にファイル生成される(もしくはスタートと同時に表示される)

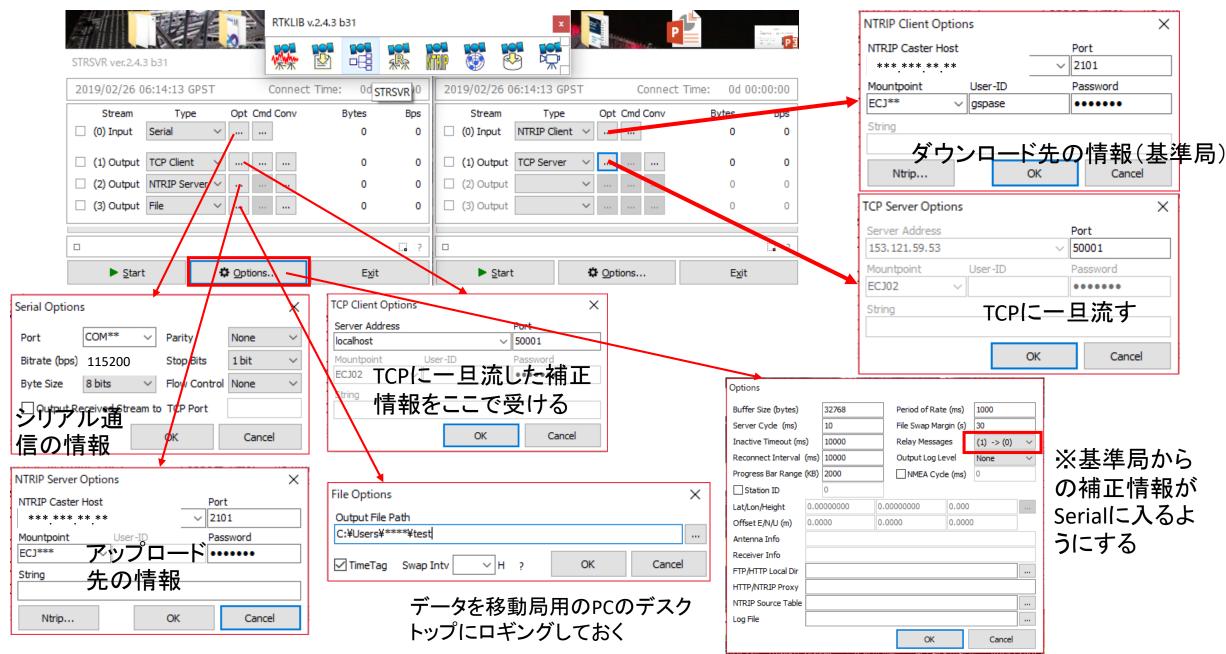
番外編

以下の項目ではNTRIPサーバーの情報が出てきますが、 各自でNTRIPサーバーを契約してそちらのアドレスを利 用してください

STRSVRでNTRIPへRAWやRTCMをアップロード(基準局)



STRSVRでNTRIPへRAWやNMEAをアップロード(移動局)



RTKPLOTを使用してモニタリング(観測局)

